短期予報解説資料　２０２６年１１月５日１５時４０分発表

気象庁

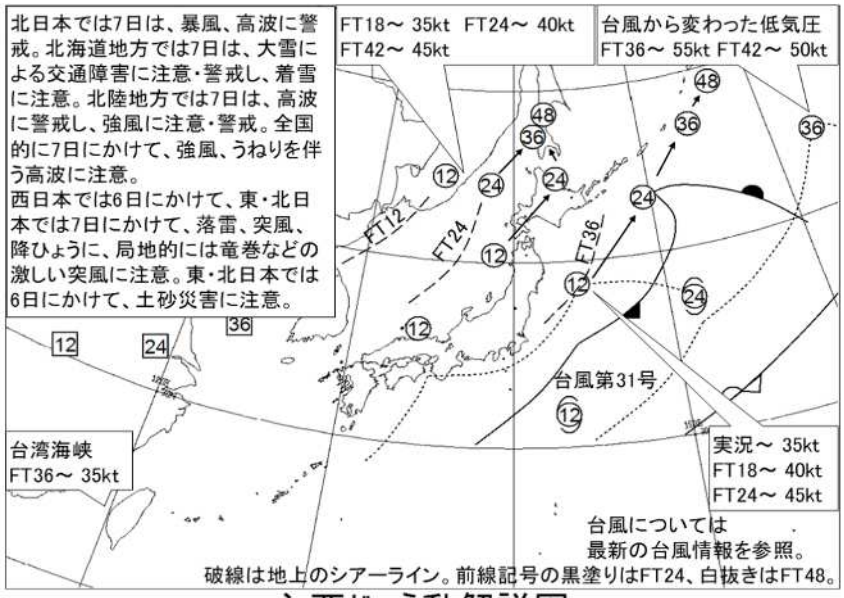
１．実況上の着目点

① 日本海西部に進んできた低気圧と前線に向かう下層暖湿気の影響で対流雲が発達し非常に激しい雨を解析、発雷を検知。

② 伊豆諸島で記録的な大雨をもたらした前線を伴う低気圧が関東沖を北東進。

③ 衛星水蒸気画像では、アムール川上流に寒冷渦に変わりつつあるトラフ、500hPa 5700m付近と5820m付近のトラフが黄海と西日本にあり、全体として深まりつつある。

④ 台風第31号が亜熱帯ジェットに近づき、加速しながら北東進。小笠原諸島から遠ざかりつつある。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、トラフが先行し6日はじめには北陸地方に達して不明瞭化するが、その南側の下層暖湿気を要因とする不安定域が6日朝にかけて西日本から東日本に移動する。西日本から東日本では、6日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項③のスケールの大きなトラフが6日にかけて深まり、その前面の500hPa 5400m付近と5520m付近の強風軸に対応して、中国東北区から日本海北部に進む低気圧と1項②の低気圧が7日にかけて急速に発達し、大陸から高気圧が張り出して7日にかけて西高東低の冬型の気圧配置が強まる。これらの低気圧を結ぶ気圧の谷が北日本を北上する6日にかけては、低気圧の北側をまわりこんで南東から流入する湿った空気の影響でまとまった雨となる所がある。2項①の要因と合わせて、これまでの大雨により地盤の緩んでいる東・北日本の地域では6日にかけて土砂災害に注意。6日には流入する寒気の先端に対応するシアーラインが北日本から東日本を通過。その後も、上空の強い寒気の影響で日本海側を中心に大気の状態が不安定となる所がある。東・北日本では7日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意。シアーライン通過時を中心に竜巻などの激しい突風にも注意。

③ 2項②の冬型の気圧配置の強まりに伴い、7日を中心に850hPa −6℃以下の寒気が北日本に流れ込む。北海道地方では7日は大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。非常に強い風が吹く北日本では暴風、高波に警戒。北陸地方では高波に警戒し、強風に注意・警戒。全国的にも風が強まり、太平洋側では台風第31号の影響によるうねりを伴って波が高い所が多い。全国的に7日にかけて、強風、うねりを伴った高波に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(18時からの24時間)：北海道100mm。② 波浪(明日まで)：北海道・東北・小笠原5、北陸・関東・伊豆諸島・中国・四国4、東海・近畿・九州南部・奄美3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。